

NVC Monthly



寝屋川映像同好会会報

第77号(201512)

発行 竹田幸男



27年度市民映像作品発表会開催

第65回寝屋川市民文化祭が11月1日～3日の間寝屋川市立総合センターで開催され、その中で表題の発表会が1日(日)に4階視聴覚室で開催されました。今回は14人の作品中、映像同好会からは5人の作品が出品され、好評を得ました。

例会の窓

平成27年11月例会

日 時：平成27年11月13日（金）

13：30～16：45

場 所：産業振興センター5F 会議室（大）

出席者：新井 小笠原 竹下

竹田 谷 田淵（50音順・敬称略）

寝屋川支部地区委員 吉岡さん

欠席者3名

例会次第

1. 報告・連絡・協議事項

(1) 会報筆者 谷さん

(2) 今年の大阪アマチュア映像祭の結果

- ・11/1 竹下作品「巨木探訪」を出品、好評を得る。

(3) 市民文化祭の結果

- ・11/1（日）10：30～16：30の間開催、出品14作中、同好会からは5人（5作）出品
- ・11/3 体験コーナー「写真が動く！？」講師竹田さん、会員は小笠原さんが出席。

(4) 映像協会秋の撮影会の結果

- ・次回の撮影会に対する希望

(5) 忘年会 12月20日（日）

9：00～11：30 総合センターで合同例会

出品作は映像フェスティバル出品作に限定、終了後がんこへ移動

12：00～忘年会 今年も持ち寄り品を。

2. 協議事項

(1) 第10回 寝屋川映像フェスティバル出品作品の検討

(2) 松愛会寝屋川支部40周年記念行事への対応

- ・同好会展示（28年1月30日（土））内容の討議
- ・パネルデザインの担当 活動PR用写真収集
- ・活動PR映像の編集担当 写真・動画の収集（どんな場面が必要か）
- ・会員作品展への対応（28年1月8日（金）～11日（土））
- ・各人の発表作のリストをもらう。

3. 映写・研究発表 会員持参作品の映写

(1) 小笠原さん おうみ子供園の園児 かぶと山ハイキング(編集中)

・90名のかわいい園児を撮影、100枚のDVDを作成してプレゼントされるとのこと、見る人の負担を考えて、出来るだけ短く編集されるのが良いと思います。

(2) 竹下さん 「葵まつり」10分

・2005年作の初めてのビデオ編集作品。(初めてとは思えないできばえ。)

4. 各会員の最近の活動状況・情報交換・当面する問題点等

5. 来月の開催日 12/9(水)



るり溪谷ハイキングで、嬉しかったこと

谷 弘子

歩こう会の11月度ハイキング計画は、るり溪谷(京都府南丹市園部)バーベキュー&ウォーキング&温泉。今回は、22名参加。

能勢電鉄、日生中央から送迎バスを利用して約30分で、るり溪温泉に到着。12時前にバーベキュー会場へ。3テーブルにわかれ、部会長の乾杯発声で、バーベキューが始まりました。にぎやかに食べたりおしゃべりしたり、その様子を、ビデオ撮影しました。

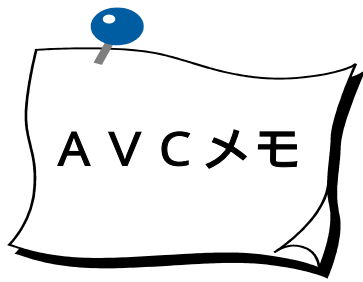
屋外の開放的な雰囲気の中で、美味しい肉、野菜、ビール等を堪能しました。そこでサプライズが。私に誕生日プレゼントを。そして「Happy Birthday」の歌を唄ってくれたのです。(私の耳元に今でもよみがえってきます。)

残念ながらそのビデオは撮れませんでした。最高のプレゼントを頂きうれしかったです。

2時間後、るり溪谷ハイキング。通天湖からゆっくり滝を眺めながら双龍淵まで歩きました。その後、温泉へと向かった。

帰宅後、ビデオを何度も見ながら編集しています。皆さんの笑顔がとてもいい。毎月お会いしている顔見知りの方ばかりなので、自然体で撮れている。本当に撮影してよかったと実感しました。

できあがりをお楽しみに。



「テープの転写」

竹田 幸男

高校3年の時のクラス会が、当時気が合ったメンバーだったのが延々と続いていて、それが、ついにこれが最後、ということになったのですが、またそれが復活して有志の集まりとなりました。この際、何か面白いイベントを、と思って古いテープを探していたら、なんと1992年、23年前のクラス会実況テープが出てきました。当時はハイ8のアナログテープの時代、これをパソコンに取り込みデジタル変換したら映像らしきものになります。

所が、編集しながら映像を見ると所々映像がガタガタと揺れているところがあります。何とかごまかして有志によるクラス会の席上では大喝采のうちに映写を終わりましたが、この現象はテープの転写によるものと思われます。

オーディオテープ、ビデオテープとも磁気記録を利用しているので、転写という現象が付きものです。薄いプラスチックのベースの上に酸化鉄やクロームなどの磁性粉がバインダーと呼ばれる接着剤によりコーティングされ、または蒸着されて磁性層を形成しています。この磁性層にヘッドによって映像・音声信号に従って着磁されて信号が記録されます。テープは巻き重ねられているので、薄いプラスチックのベースを通して一層上、一層下の磁性層の着磁が影響を与え、データが転写されてしまうのです。映像・音声は刻々と変化するので、弱いながら元々の映像・音声とは異なったものが本来の映像・音声と重なって、映像の場合は画がガタガタと揺れて見え、音声の場合は本来の音に小さな音が重なってエコーのように聞こえるなど再生品質が低下します。

これを防ぐには、転写が起こらないうちにテープを取り出して早送りで巻き取って保管します。しばらく経ったら早巻き戻しで巻き取って保管します。これを繰り返し行うことによって、重なる部分が変わることで転写の影響を小さく出来る、とされています。経験上、映像の場合は信号を記録したトラック幅が狭い8ミリビデオテープが最も転写が起こりやすく、トラック幅の広いVHFテープは比較的起こりにくく、デジタル信号を記録したDVテープは、さらに起こりにくいように感じます。

オープンリールテープ、カセットテープ、ビデオテープなどのテープ記録媒体は、転写の問題以外にも、かびが生えたり、接着剤が劣化して磁性層がベースからはがれ落ちたり、という不具合が生じる恐れがあり、それよりも先に再生機が壊れたりして再生不可能になる恐れがあるので、大切な映像・音声を記録したものは、早く別のデジタル記録媒体に移し替えることをおすすめします。